

専務・常務・政策課長のご紹介

社団法人日本農業法人協会

この4月から、事務局では新しく「専務」「常務」「政策課長」を迎え、体制も大きく変わりました。今週号では、この3名から皆様にご挨拶させていただきます。

【野村俊明専務より】

はじめまして。4月から専務理事を拝命しました野村俊明と申します。

学校を卒業してから、去る3月末でちょうど4分の1世紀が経ちましたが、その間ずっと農林漁業金融公庫で過ごしてまいりました。現在も、身分上は農林漁業金融公庫顧客支援部に所属しております。

公庫では、近畿支店・宮崎支店で現場の勉強をした後、本店や農林水産省（出向）で、融資制度の創設や改善の仕事を経験しました。その後、約10年間、弁当や乳製品などのメーカーや食品スーパーなど食品産業分野での融資業務に携わってきました。

公庫では、せっかく農林漁業金融公庫に就職したのに、あまり農業の現場を訪れる機会に恵まれませんでした。協会では（事務所は東京・虎ノ門ですが、）農業経営の最前線で頑張っておられる会員の方々と、心の距離が開かないよう微力ながら精一杯努めたいと思いますので、ご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



【稲垣照哉常務より】

4月1日付けで全国農業会議所より出向し、常務理事を拝命いたしました、稲垣照哉と申します。会議所では農地、経理、経営、新聞普及、農政等々を担当して参りました。

四半世紀近い団体マン生活の中で、私の行動の座標軸となった体験を記して今後の決意の一端を示しご挨拶とさせていただきます。

それは、平成6年に経営の担当となり農業経営者の方々と日々直接にやりとりする機会に恵まれるようになった直後、会議所に就職当時、農地部に配属になり「農地を流動化し足腰の強い経営者を育成しましょう。」とか「担い手に農地を面的集積しましょう。」等と深い意味も分からずに黄色い嘴で喚いた時の「足腰の強い経営者や担い手とはこの人達のことなんだ。」と目から鱗が取れた思いが今も鮮烈に記憶に残っています。以後その時の思いと、その頃お付き合いさせていただいた経営者の顔を何かにつけ思い出しながら仕事をしてきたつもりです。

今回法人協会の役職を拝命したところ、往時の方々が多数、当協会に集っておられ、懐かしくもあり、心強くもありますが、改めてその責務の重さに身を引き締めております。

変化の時代、早さが身上と思いつつも、「走ってから考える」悪い癖があり、せめて「走りながら考える」よう行動様式を改めようと思って、日々過ごす根が軽佻浮薄な者です。何卒会員各位のご指導ご鞭撻を賜り職責を全うできるようよろしくお願い申し上げます。

【梶山泰治政策課長より】

はじめまして、政策課の梶山泰治（かじやまたいじ）と申します。

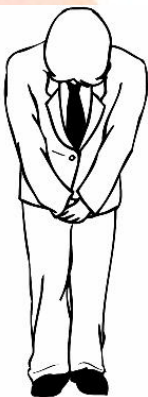
中出隆明の後任として、2006年4月1日付けで農林漁業金融公庫から当協会に出向してまいりました。

これまで公庫では、東海支店（名古屋市）を皮切りに、高松支店、秋田支店、本店総務部にて勤務いたしました。

東海支店では愛知県（特に豊橋市や渥美半島、知多半島）を、高松支店では香川県と徳島県を、そして秋田支店では特に秋田県南部を担当しました。当協会の会員名簿を見ていたら、過去に勤務した3支店において、担当者としてご訪問しお話をさせていただいた方のお名前をいくつも拝見することができ、大変懐かしく思いました。

今後は、政策提言、調査研究・情報普及、担い手総合支援事業などを担当いたします。文字にしてみるとムズカシイ言葉が並んでいますが、まずは会員の皆さんの考えを知ることが肝心だと思いますので、多くの会員の方々から直接お話を聞き、担当業務に反映させていきたいと考えております。お会いできた際は、皆さんの経営の方針や課題、その他、当協会に望むことなどをお聞かせください。また、ご要望があれば参りますのでお声を掛けてください。

どうぞよろしくお願いたします。



法人協会ニュース

GAP 全国会議が開催されます

（後援：（社）日本農業法人協会）

GAPとは「適正農業規範（Good Agricultural Practices）」の略称。農業生産現場における安全性確保の具体的な対策として、世界的に普及しているルールです。今回の全国会議は、GAP導入の事例や国際本部の責任者のお話など、実践的な内容で構成されています。なお、当協会会員は参加料が¥15,000→¥10,000に割引されます。

<日時>2006年4月27日（木）～28日（金）

<時間>9:00～17:00（28日は16:00終了）

<場所>東京都立産業貿易センター

（JR浜松町より徒歩10分）

<主なテーマ>

●シンポジウム1：今なぜGAPなのか

- ・農水省講演/世界のGAP事情と日本に相応しいGAPの実践/ポジティブリスト制度について等

●シンポジウム2：GAPは日本農業の生き残り戦略

- ・日本版GAP入門、実践講座 等

●スタートした日本のGAP

- ・単独生産者農業のGAP
- ・生産者団体のGAP導入報告
- ・スーパーマーケットのGAP 等

同時開催：「農業・情報・技術展」「農業技術・情報セミナー」「JGAP農産物商談会」

<参加申込み、お問い合わせ>

農業情報学会 シンポジウム事務局

<http://www.jsai.or.jp/taikai/18th/>

詳細については、事務局までお問い合わせ下さい。

本紙に関するお問合せは下記までお願いします。

社団法人日本農業法人協会

（HP：<http://www.hojin.or.jp/>）

TEL：03-5156-0365

FAX：03-5156-0366

MAIL：juku@hojin.or.jp

© 日本農業法人協会 2006

本紙掲載記事の無断転載を禁じます。